

○集団活動の課題

現在の学校生活は、集団行動や集団での活動が多くなっています。学校である前に人は生物としての集団性があります。生物として集団性を保全するためのホルモン行動調整機能も備わっています。その上で集団活動の課題を提示いたします。

人間は特別な高等生物と考える人もいますが、生物の持つ特性と根源的な調整機能に抗うのは困難です。

○集団性に関わるホルモン

まずは集団性について提示します。

集団性のある生物は、集団でいないと不安が起こるようなホルモン機能があります。

指示命令についてです。人間には指示命令にストレスや不満を感じるようになっていきます。故に心理的リアクタンスという指示に対し反発した行動で、ストレスを緩和するというカリギュラ効果が認められています。これは別項目で説明します。

集団性の生物はその集団の行動を保全するための本能行動を持ちます。集団での行動に反する個体を攻撃して安心感を得る、という集団行動の機能保全です。

これは人間社会では誹謗中傷、炎上、不道德叩き、という行動に発展する可能性があります。

これらの要素を取り込んで集団行動のシミュレーションを構築してシミュレートしてみました。集団での一日当たりの活動数を増やしていけば、活動についていけず消極的になる個人が出てくる。するとその個人への冷遇や注意と言った集団行動が起こり増えていく。結果的に一集団での行動や範囲を広げれば、個人への攻撃や冷遇も増加する傾向になりました。

○具体的な集団性

具体的に言えば、宿題の範囲や数を増やしていけば、ついてこれず宿題が未提出になる者が出てくる。すると宿題未提出に対して先生や係りの子どもから注意や叱責が起こる。また周囲もそのことに対して冷たい視線を送ることが増える。そういう事が考えられます。運動会や合唱祭など行事についても、集団活動を増やしていけば苦手で活動に積極的に参加できない個人が出てきます。そうすると消極的になる個人への風当たりが強くなり、冷遇や注意勧告が多く発生します。それが行き過ぎる可能性があります。

この行動は集団で行う活動に、積極的に参加できない個人への攻撃となり、その個人への大きなストレスに成り得ます。

集団活動の課題

哺乳類の本能＝ 集団性 一人でいると不安

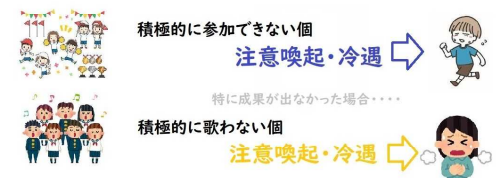
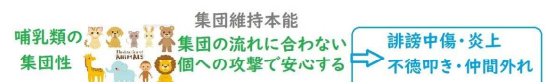
セロトニン研究 鳥類で実証される

指示への反発＝ 心理的リアクタンス・カリギュラ効果
心理学者ジャック・ブレームが検証

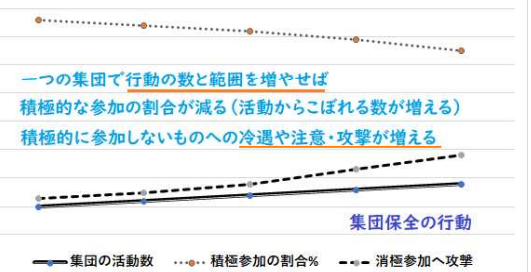
集団保全本能＝ 集団の行動ルールに反したもののへの攻撃
規律違反人物への攻撃で安心感を得る
中島信子＝東京大学医学系研究科による

集団行動に反する個への攻撃本能

誹謗中傷、炎上、不倫叩き、いじめの基本的行動原理



集団行動シミュレーター



生体ホルモンによる集団保全機能



脳科学者・中野信子先生の著書「人はいじめをやめられない」から引用

○三つのホルモン

これら集団保存の機能は人の意志や思考より根源的な、三つのホルモンによって行動がコントロールされます。

三つのホルモン機能については脳科学者・中野信子先生の著書などから引用します。

脳科学者中野先生のホルモン学説は、私も2018年から目を通しています。ホルモンは様々な作用がありますが、ここでは集団性や思春期についての部分を引用します。

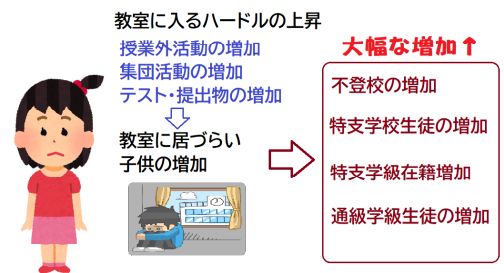
まずはオキシトシンです。

人間は集団性の生物でなので、集団性を保全するためにオキシトシンは欠かせないホルモンです。個人が各々勝手な行動をしたら集団性は保全できません。オキシトシンは集団行動を共にしていないものを注視し問題視する機能があります。つまり仲間でない言動を注視し問題視するホルモンです。

次にドーパミンです。これは場合によって前出のオキシトシンと連動します。オキシトシンが仲間の言動ではないと注視したものに攻撃をし、排除行動をすることで安心感や快感が得られる機能があります。この二つのホルモンの連携で人の集団性は保全されます。まず集団の活動の中でその集団の活動や方向性に消極的な存在があると、オキシトシンが反応します。その集団にふさわしくない言動をする存在として注視し危険視します。そしてドーパミンです。その集団にそぐわない存在に対して冷遇を加えて安心感や快感を得ようとします。これは集団を保全しようとする人間の集団性を守るものです。この二つのホルモンのコントロールは思考や経験に優先される根源的な行動調整です。

さらに作用するのはテストステロンです。これは思春期にかけて作用が増加するホルモンです。思春期の時には人の欠点に敏感になり、過激になります。先ほどの集団保全のためのホルモン作用も思春期年齢に過激になります。

これらホルモンの機能を理解することが必要になってくるでしょう。



END